

## &lt; 認知症対応型共同生活介護用

<b>評価結果報告書</b>
----------------

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<b>11</b>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<b>2</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<b>6</b>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<b>11</b>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4670103045
法人名	医療法人 萩風会
事業所名	グループホーム 谷山ゆめ
訪問調査日	平成 20 年 10 月 3 日
評価確定日	平成 20 年 11 月 19 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

## 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

## 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所

以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 #####

## 【評価実施概要】

事業所番号	4670103045		
法人名	医療法人 萩風会		
事業所名	グループホーム 谷山ゆめ		
所在地 (電話番号)	鹿児島市下福元町1719-3 (電話) 099-260-8032		
評価機関名	特定非営利法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山町一丁目16番7号		
訪問調査日	平成20年10月3日	評価確定日	平成20年11月19日

## 【情報提供票より】20年9月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 12 月 10 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 8 人, 非常勤 9 人, 常勤換算	14, 3 人

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	階 ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	管理費 20,000 円
敷金	有(50,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

### (4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	6 名	要支援2	名		
年齢	平均 85.9 歳	最低	76 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	萩原整形外科
---------	--------


## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市の郊外に位置し緑豊かな自然に囲まれた山あいの地区に、地域の家並みに溶け込むように「グループホーム谷山ゆめ」が建っている。庭の入り口にはバラの木で作った門があり、ハーブや、うめ、びわ、柿、みかんの木が植えられ、庭の隅には畑も作られ、季節を通して利用者の目と舌を楽しませている。また、地域との交流もさかんに行われており利用者と一緒に地域の行事に参加したりホームに招待したりと親交を深めている。管理者と職員は家庭的な雰囲気の中で残りの時を穏やかに過ごして頂きたいと、利用者一人ひとりに合ったケアを心がけている。家族との繋がりも大切にしており花見には、必ず利用者のお弁当を作ってきてもらい一緒に食べる様子は、笑顔が溢れている。運営母体の医療法人との24時間医療連携体制も整っており、利用者や家族にとっても安心できるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年度の評価結果は職員に報告し、話し合いをして改善に向けた取り組みが行なわれている。「運営推進会議を活かした取り組み」では市、包括支援職員の参加をお願いしている。「家族への報告」は職員の異動の報告がされていなかったが紙面にて報告するように改善している。「職員を育てる取り組み」では、内部研修については、年間計画を立て実施している。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価をケアの振り返りの機会と捉えて、白紙の表を職員に渡し、記入してもらいミーティング時に管理者が意見を聞きながらまとめ上げている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>平成18年5月より2ヶ月に1回、町内会長、民生委員、地域活性化代表、法人代表、家族代表、管理者が参加して運営推進会議が実施されている。事業所の経過報告や行事案内をして、町内会の行事予定の情報を得ている。町内会長や地域の方々が、認知症について理解して受け入れてくださるので、地域で行なう行事に参加できている。今度は地域の方々と交えて救急講習会を予定している。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>年2回の家族会や運営推進会議、面会時などに家族からの意見を聞き、職員と話し合い運営に反映している。家族からの要望は、職員の連絡帳に記載し職員は共有している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、今年は班長として活動している。町内の清掃活動に参加したり、クリスマス会に子供達を招待したり、高校の職場体験を受け入れたりしている。近所の方が野菜を持ってきてくれたりと日頃から交流し連携をとっている。</p>

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	1、家庭的な雰囲気 2、地域とのふれあいを大切に 3、ひとりひとりの個性を尊重 という理念を地域密着型サービスに移行した時に、職員と話し合って作っている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を職員の見える所に貼り、引継ぎ時に唱和して共有している。職員は、理念をケアの中心において、利用者一人ひとりの個性に合わせ、家で過ごしているように支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、今年は班長として活動している。地域活性化の為に活動している漂流会が主催する、そうめん流しや焼肉パーティーに参加したり、近所の方々と食事を一緒にしたり、清掃活動など、交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果の内容を、職員に報告して一緒に話し合って改善に取り組んでいる。自己評価については白紙の評価表を職員に渡し、記入してもらい、ミーティング時に管理者と一緒にまとめ作り上げている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年5月より2ヶ月に1回、町内会長、老人会長、民生委員、家族代表、地域活性化活動の代表、法人代表、管理者が参加して行なわれている。地域の方が認知症について理解して受け入れて下さるので、地域の行事に参加できている。今度、地域の方々と交えての救急講習会を開く予定にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	平成20年度に1回包括支援センター職員が運営推進会議に出席してもらえたが、市職員の出席までには至っていない。市の相談員の受け入れや介護保険に関することで連絡を取り合っている。		事業所から市の担当者・包括支援センターへの働きかけを行い、市町村と共にサービスの質の向上に取り組むことを期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	3ヶ月ごとに発行している「ゆめ便り」は、遠方にいる家族(子供)全員に送って喜ばれている。職員の異動についても紙面で報告している。面会時は一人ひとりのアルバムを作っているのを見てもらったり、金銭出納帳を確認してもらい、サインをもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会や運営推進会議、面会時に家族の意見を聞き、職員と話し合っ運営に反映させている。家族からの要望は職員の連絡帳に記載して、職員は共有している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が交代するときには、引継ぎ期間を1週間程度とるようにしている。夜勤についても新人が慣れるまでは2人体制にしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については、職員が出来るだけ参加できるように配慮している。谷山地区勉強会には職員も参加し、管理者自身が主催して勉強会を行なっている。内部研修については年間計画を立て実施している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿児島市グループホーム連絡協議会に参加している。谷山地区のグループホームネットワークを作り研修を行なっている。他の事業所の職員が見学に来ることもある。管理者会議では、これから職員の交流をしていきたいという意見があがっている。		地区のネットワーク作りが進んでおり、管理者の勉強会など積極的に取り組んでいる姿勢が見られるが、今後は、職員同士の相互訪問を実現させることにより、事業所だけでなく地域全体のサービスの質の向上に繋がることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	利用者と家族と一緒に見学に来てもらい、事業所の雰囲気を見てもらっている。職員と馴染みの方の入居が多く、利用者は安心して生活が始められている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	利用者の身体的機能が少しずつ低下しているため、出来ていたことでも大変になってきた方もいるが、季節ごとの団子作りや行事毎の食事作りを教えてもらったり、レクリエーションでは一緒に歌を歌ったりしながら相手の立場に立ったケアを忘れず、「ここでよかった」と言ってもらえるように支援している。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	日常生活での会話から利用者の思いを把握することが多い。意思疎通の困難な方でも日常の中から察したり、家族に聞いたりしながら把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	介護サービス目標実施記録を作成し、サービスの実施状況、達成状況を毎日記録している。月に1回のケース会議において、職員の評価と意見、また、本人の意見や家族の意見を反映させた介護計画を作成している。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	サービス実施状況に新たな変化がない場合、6ヶ月に1度の見直しを行なっている。緊急時にはその都度見直しを行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定を受け看護師が健康チェックを行い、医師による往診も行っている。家族からの要望があれば病院受診に付き添ったり、外泊の支援など臨機応変に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が入所前の病院をかかりつけ医としており、替わる場合は、家族が納得して替わっている。専門科の受診については、家族同行となっているが、家族からの要望があれば職員が同行し、受診結果については、家族に電話で報告している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う対応の指針、看取り介護についての同意書を作成し、同意をもらっている。ターミナルケアについては、医師、看護師、家族、管理者と話し合い、職員間でも方針を共有して看取りも行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入職時に秘密保持に関する誓約書を交わしており、利用者の個人情報の取り扱いについても注意を払っている。プライバシーを損ねるような声かけについては、十分注意を払っており、職員同士でチェックするように心がけている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの一日の生活の流れを把握しており、その人のペースに合わせて、ホームでの生活が送れるように支援している。手芸で壁飾りを作ったり、ドライブに行ったり、買い物に付き添ったりと希望に沿って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、今日何が食べたいか、一緒にチラシを見ながら決めて、買い物に行ったりしている。食事の準備は、利用者の力量に応じて、野菜の下ごしらえ、テーブル拭きや配膳などを行っている。職員は、食事介助だけ行い、一緒に食事ができていない。		利用者の機能低下などで食事介助を必要とする方もおられるが、食事時間もケアの時間であるという意識を職員が持ち、できるだけ同じテーブルについて家庭的な雰囲気の中で一緒に食事しながら介助できるような工夫をし、食事が楽しいものになることを希望します。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回入浴日を決めているが、毎日入りたいという方は毎日入ることができる。ゆっくり入って頂くように小さい庭を浴室の外に作り、環境を整えている。拒否する方には声かけを工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や得意分野で、そばを打ったり、縫い物をしたり、手芸で壁飾りを作ったり、干し柿作り、干し大根作りなど力を発揮してもらっている。また、みかん狩りやそうめん流し、月1回の踊りのボランティアの来訪など、楽しみごとの場も提供している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、散歩したり、庭に出てお茶を楽しんだり、隣接する同法人のデイサービスに出かけて行って、交流している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にチャイムをつけているが、家族の了承を得て、時々鍵をかけることもある。外出傾向にある方がいることを地域の方にも知ってもらっており、何かあったら連絡を頂ける体制はできている。		玄関のチャイムが鳴ったら、必ず行くという習慣づけを行い、鍵をかけないケアに取り組まれることを希望します。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の下に、夜間想定消火・避難訓練を毎年実施している。内部研修でも自主訓練を実施し、町内会を通して地域の協力もお願いしてある。ホーム1には避難経路が一箇所しかなかったが、今後もう一箇所出口を作る予定になっている。		内部研修で自主訓練も実施されているので、その中に地震想定訓練も加えて頂き、非常食・飲料水の備蓄についても検討されることを希望します。



外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量と水分量については、毎日チェックしている。献立のバランスについては、栄養士にみてもらいアドバイスを受けている。食事一口大、刻み、とろみなど一人ひとりに合わせて支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの天井は、高くゆったりした作りである。畳の間には仏壇があり、お参りする利用者の姿も見られる。洗面所の鏡は、少し低く斜めになっており車椅子にも配慮している。風通しもよく、洗面台やテーブルには季節の花がさりげなく飾られている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口に、名前を掲げ写真が貼られている。居室には今まで使っていた物、ベット、タンス、テーブル、位牌やぬいぐるみなど、馴染みの物が持ち込まれて居心地よく過ごせるようにしている。		